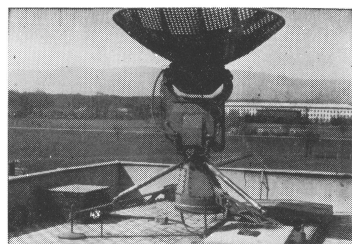


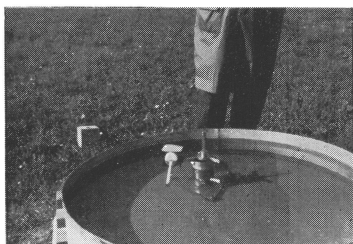
No. 1 Zagreb 気象台
左半分は気象、水理関係、右半分は地質地震関係。



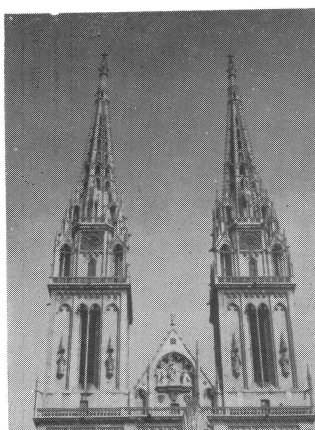
No. 2 Zagreb 高層及地上気象観測所 ラジオゾンデの気球は日本製を使用し経緯儀も日本製を使う予定、敷地の広さが目立っている。



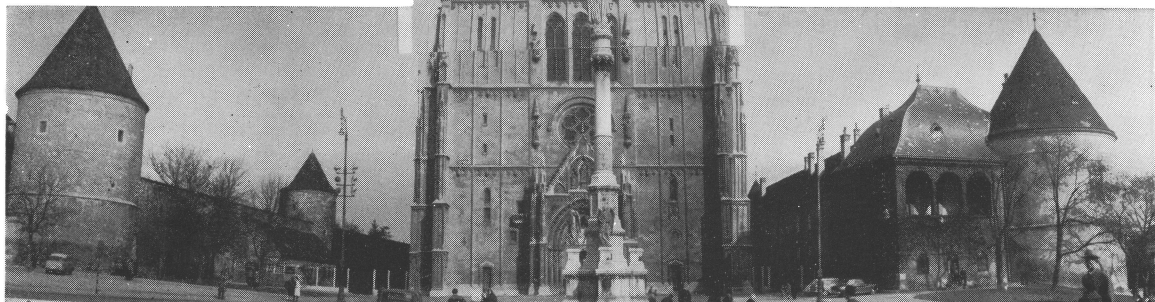
No. 3 向うの Sljeme 山には山頂気象観測所及び空電、宇宙線、放射線、大気放射、塵埃等特科気象観測所がある。向うの建物は農業技術大学（Zagreb 高層及地上気象観測所）。



No. 4 大型自記、読取蒸発計（Zagreb）。



No. 5 気象台の傍から見た Marcus 教会、Gric 1242 年以來建つて居り屋根にクロアチアとザグレブの紋章が表わされている。両側は旧王族の家で気象台はこゝから 100 m 左手に当る。丘の象徴となっている。



No. 7 Zagreb Zrinski 広場にある気象柱。風配図、気温気圧、湿度の自記記録を示し、他の面には氣候表、他の面には天気予報等いろいろのものを掲げている。ブナの大木の下のベンチは日なたばつこの人で一杯。→



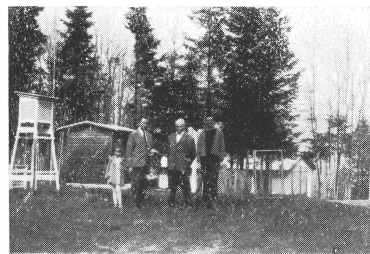
↑
No. 6 Zagreb Kaptol 丘に聳える象徴 Zagreb Dom。周囲の壁は 1443 年のもので、中央部は 1880 年の大地震後再建された。



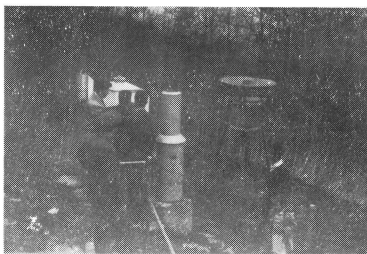
No. 8 気象台の窓から見た Zagreb 最古の Lotrščak 塔。1200 年合には塔の上の鐘が毎日城門の閉じるのを知らせた。700 年来今日まで三階の窓からお昼の号砲が鳴らされている。その左には Dom の二つの大塔と Katharina 教会が見える。↙



No. 9 友人宅の窓から見た Zagreb の大学の一部 右手に遠く Sljeme 山塊が見える。その山頂に測候所及び観測所がある。



No. 10 Sljeme 山頂特殊観測所 左 Zagreb 高層課長 Poje 氏、中央所長 Kovačić 氏。



No. 11 ユーゴでは一般に各種の雨量計の値が別々に併記されている (Sljeme 山頂測候所)。



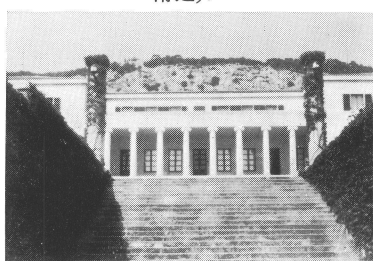
No. 12 典型的な Step 地帯。家も耕地も牧場も総てボラを防ぐための石垣に囲まれている。山で集めた雨水は水道で導かれている。(中央高地 Kulen Vakuf 附近)。



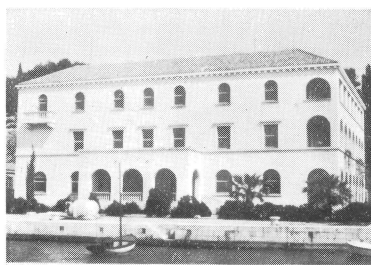
No. 13 Split 海洋気象台、白いセメントに緑の窓の扉が目ざめる様に美しい、アドリア海を航行する船舶には重要な意義をもっている。



No. 14 Split のローマ Diokretianus 帝時代の遺跡。



No. 15 世界的に名高い Mestrovic の彫刻館。このうしろの山頂に Maljan 測候所がある。Mestrovic はここに庭園と建物を作りその中に彫刻を陳列したが、ナチスに捕えられて後アメリカに亡命した。



No. 16 Split 海洋研究アドリア海の漁業の科学的開発に力を注いでいる。Mira 女史は日本の海洋学に関心が深く、図書室には日本の文献が沢山あった。



No. 17 Marjan 測候所では空電自動記録器を予報に使用している。



No. 18 Pula 測候所。Pibal もやっている。松林や縄跳びドッチボールをする子供達が日本によく似ていた。松はボラのため偏っている。



No. 19 Marjan 測候所より見た Split 市の全景。ここはアドリア海港屈指の要港で日本の遠洋漁船もしばしば立寄って、まぐろ等を売っている。向うは中央高地の Karst。